

	日本建築学会「鋼構造設計規準」 許容応力度	昭和 45 年版 (’04-5) A
--	--------------------------	-----------------------

1. 鋼 材 (長期、疲労を考慮しない場合)

単位 : kg/cm²

応 力		記号	SS400 SM400	SM490 SMA490	
基準値	F 値	F	2400	3300	降伏点
引張		ft	1600	2200	F / 1.5
圧縮	一般 (座屈を考慮する)	fc	1600 最大	2200 最大	5.3 5.4 式
	ウェブフィレット端部	fc'	1850	2450	F / 1.3
曲げ	箱型断面材及び 弱軸周りに 曲げを受ける対称材 □ H	fb	1600	2200	横座屈なし
	対称軸を有する圧延型鋼 I 等 で横座屈を考慮する場合	fb	1600 最大	2200 最大	5.7 5.8 式
	溝形断面及び非対称材 □	fb	1600 最大	2200 最大	900 / (lb · h / Af)
	ベアリングプレートなど	fb1	1850	2540	F / 1.3
	曲げを受けるピン	fb2	2180	3000	F / 1.1
せん断		fs	923		F / 1.5√3
支圧	ピン及び荷重点スチフナの接 触部その他仕上げ面一般	fp1	2180	3000	F / 1.1
	滑り支承又はローラー支承部	fp2	4560	6270	1.9 F

2. ボルト, リベット

ボルト SS400	引張		1200	—	M16 で 2.41t
	せん断		900	—	〃 1.81t
	支圧 (相手材)		3000	4125	1.25F
高力ボルト F 10T	引張		3100	—	M16 で 6.23t
	せん断		1500	—	〃 3.02t
リベット SV41,34	引張		1600	—	
	せん断		1200	—	
	支圧 (相手材)		3000	4125	

3. 疲労を考慮する母材及び溶接継手

区分	継 手	応 力	SS400、SM400			SM490			
			疲労な し	<2× 10 ⁶	2× 10 ⁶ <	疲労な し	<10 ⁵	< <	2x10 ⁶ <
母材 溶接 上 仕上	母材又は 突合せ	引張	1600	960	611	2200	1320	960	611
		圧縮							
	突合以外	せん断	923	554	353	1270	761	554	353
溶接 並 ×0.9	突合せ	全て							
		引張	1440	864	550	1980	1187	864	550
	突合以外	圧縮							
		せん断	831	820	318	1143	686	499	318
		全て							

4. 許容応力度の割増

長期荷重 (固定+積載) に短期荷重 (雪, 風, 地震) を加えて検討する時は、上記値を 50% 増とする。